

2016/5/1

しろひげ@Kurobane です。

5月になりました。

みちのく路が桜に染まる 4 月半ばに起きた大震災は、またしても私たちの美しい列島の春を涙色にしてしまいました。

花卉が散り、蕊(しべ)が降り、若葉が光る、という命の型は季に応じて鮮やかに移ろうのに、その巡りを愉しめずにいる自分がいます。

日常を断ち切られ、逆境の底で懊悩する人たちへの想像力を絶やすまいと思いながらも、いったい何をすればよいか、解らぬまま 5 月を迎えてしまいました。

<もういちど はじめから / やり直そう / そう思った / さくらの花を仰ぎながら…>

詩人の大木実が、戦争終わって命ひとつで復員して、祖国の土を踏んだ心情をうたった作の一部です。

どんな言葉よりも、花の無言に励まされる心もあろうと思います。

大地が裂け、家屋が倒壊された人には、眼前の光景は戦後の焦土にも等しいかもしれません。

しかし、心のふるさとである熊本城の緑鮮やかなクスノキが、生命の力を与えてくれると信じて止みません。

熊本県の花、リンドウの花言葉が「悲しんでいるあなたを愛します」であることを思い出し、心の荒野に、青紫色も鮮やかな凜とした花を移し植えて立ち直ることを願っています。

目覚めるたびに別の一日が始まる。

あすは少しだけ笑顔が増えると自分にも言い聞かせながら、私の今年の 5 月は始まりました。

黒羽根整形外科
黒羽根洋司